

SAMURAI AVENGER THE BLIND WOLF 復讐剣 盲狼

劇場用長編映画

「サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼」



プレスキット 日本語版

公式ホームページ / www.samuraiavenger.com

序文

殺す！脱ぐ！殺す！脱ぐ！
旅路の果てにまた殺す！
見よ！メリケンの地、大和魂引っさげて
腐った老若男女を叩っ切る！

国境消失！ジャンル炸裂！
人種、文化、政治もモラルも完全無視！
この恨み、晴らさでおくべきか！
メリケン侍の震える血飛沫に合掌！！

呆けたアメリカも萎えた日本も
この映画が叩っ切る！
本当に久々、本気の侍！
足元すくわれる前に見るべし！

映画監督：清水 崇

(「呪怨」シリーズ、「THE JUON/呪怨」、「呪怨パンデミック」、「稀人」、「輪廻」)





NO HONOR. NO MERCY. REVENGE IS BLIND.

作品批評

「タランティーノと黒澤が出会った！」

—シネクエスティング

「これは『荒野の用心棒』か！？『キルビル』か！？『七人の侍』か！？

そのすべてだ！」

—セレステ・ヘイター

「『サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼』は、ポップな傑作だ。

驚きで目が離せない。天才的だ」

—チョップスティック・シネマ

「狂喜の痛快さ！魔女、サムライ帝王切開、落武者ゾンビ・・・
おまけに催眠術オツパイまで出てくる！催眠術オツパイだぜ！」

—ジェイソン・ウォッチズ・ムービーズ

「この映画は世界中のマニアを虜にする」

—サンノゼ・メットブログス

SAMURAI AVENGER THE BLIND WOLF

復讐剣 盲狼

A KURANDO MITSUTAKE FILM "SAMURAI AVENGER: THE BLIND WOLF"

KURANDO MITSUTAKE, JEFFREY JAMES LIPPOLD AND DOMIZIANO ARCANGELI
SPECIAL EFFECTS MAKE-UP BY MULTIVISION FX COSTUME DESIGNER KERRIE KORDOWSKI
PRODUCTION DESIGNER STEVE OCHOA EDITED BY JOHN MIGDAL MUSIC BY DEAN HARADA
DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY KEIKO NAKAHARA WRITTEN BY KURANDO MITSUTAKE & JOHN MIGDAL
PRODUCED BY KURANDO MITSUTAKE & CHIAKI YANAGIMOTO DIRECTED BY KURANDO MITSUTAKE

ストーリー

ショート

荒野に現れた盲目の剣士、盲狼(ブラインド・ウルフ)。その目的はただひとつ。8年前、この土地で妻と娘、そして彼の両目を奪った悪漢フレッシャーへの復讐だ。迫る危機を察知したフレッシャーは、盲狼の首に莫大な賞金を懸け、7人の刺客を雇った。流れ者と名乗る謎の剣士の助けを得て、襲いくる刺客たちと死闘を繰り広げる盲狼。果たして彼は仇敵を仕留め、復讐を成し遂げることが出来るのか！？

70年代残酷チャンバラ映画とマカロニ・ウエスタンへの愛とリスペクトを込め、日本出身の映画監督がハリウッドで製作したハイブリッド・エンターテインメントムービー！

(263文字)

ロング

砂漠のオアシスでピクニックを楽しんでいる家族。そこへ現れる悪魔のような男、ネイサン・フレッシャー。夫は押さえつけられ、自由を奪われる。美しい妻は凌辱され、惨殺された。ひとり娘の頭に突きつけられるフレッシャーの拳銃。

「なんでもする。娘の命だけは助けてくれ」

懇願する夫。サディスティックな微笑を浮かべるフレッシャー。

「なんでも・・・か？じゃあこの木の枝でおまえの両目を潰してみろ。そうしたら娘は助けよう」

自らの両目を木の枝で言われたとおりに潰す夫。絶叫の地獄絵図。血の涙を流す夫へフレッシャーは冷酷に言い放つ。

「嘘つきを信じるものじゃない」

轟く銃声。幼い娘の眉間に開いた大きな銃傷。即死だった。銃口は夫にも向けられ、数発の弾丸が彼を襲った。狂気の笑い声と共に去っていくネイサン・フレッシャー。

(次項に続く)

幸か不幸か、夫は一命を取り留めた。8年後、彼は復讐の一匹狼、盲目の剣士『盲狼(ブラインド・ウルフ)』として甦り、砂漠の町へ戻ってくる。

ネイサン・フレッシャーは、別件で逮捕され、リンボーソ刑務所に囚われていた。そして、今日が出所の日。この日を狙い『盲狼』は刑務所に向かっていた。フレッシャーが出所した瞬間に斬殺するつもりだ。

その噂を聞きつけたフレッシャーは、7人の刺客を雇った。彼らは砂漠で『盲狼』を待ち伏せる。彼の首にかかった莫大な賞金を得るために。

謎の剣士『流れ者』の助けを借り、特殊な能力を駆使する刺客たちと死闘を繰り広げる『盲狼』。

果たして彼はフレッシャーを仕留め、復讐を成し遂げることが出来るのか！？

マカロニ・ウエスタンへのオマージュと70年代残酷チャンバラ映画へのリスペクト。溢れる映画愛を注ぎ込んだハイブリッドエンターテインメントムービー『SAMURAI AVENGER: THE BLIND WOLF』！日本出身の映画監督がロサンゼルスで撮った渾身の92分。ご期待ください！

(794文字)



プロダクションノート

英語には「イースト・ミーツ・ウエスト」という慣用句がある。直訳すると「東と西が出会う」。つまり、「和洋折衷」だ。「和洋折衷」とは、和風と洋風の特徴の両方を程よく取り入れることをいい、食べ物で例えれば和のあんこと洋のパンを合わせたアンパン、和のたらこ洋のパスタを合わせたタラコスパゲティなどを思ってもらえれば、その真意が解ってくるだろう。簡単に言えば、和と洋両者の「良いこと取り」なのである。

この「和洋折衷」という言葉ほど、劇場用長編映画『サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼』のコンセプトと制作現場のスピリットを的確に表現するものはないだろう。

東京出身の映画監督・俳優、光武蔵人(ミツタケランド)はアメリカ映画に憧れ、ハリウッドに渡った。イーストからウエストに向かった彼が目指すテーマは、東洋の美学を西洋の娯楽に融合させることだった。その目標は、光武が長編映画監督作品第2弾として書いた脚本に昇華した。「スシ・ウエスタン」と光武が呼ぶこの脚本は、彼が愛してやまない残酷チャンバラ映画とマカロニ・ウエスタンのハイブリッドだった。時代設定も舞台設定もない現代の寓話。残酷チャンバラ映画とマカロニ・ウエスタン、両ジャンルで最も普遍的に語られる「復讐譚」をモチーフにした脚本は、日本人サムライとアメリカ人サムライ、ピキニダンサーたちに、サムライゾンビまでが入り乱れる、まさに「和洋折衷」のストーリーとなった。

光武と同じように日本からハリウッドを目指したフィルムメーカーたちが、まずこの作品に賭けてみる決意をした。プロデューサーの柳本千晶と撮影監督の中原圭子である。同じ夢を持つ「和」のスタッフはすぐに意気投合できた。しかし、現地のスタッフ、「洋」の人材集めは困難を極めた。ハリウッドの第一線で活躍する彼らを低予算インディーズ映画のギャラで雇うのは、映画「七人の侍」で農民が侍たちを雇おうとするのに似ていた。それでも、脚本に惚れたというアメリカ人スタッフたちがギャラを度外視して集まり始めた。「スシ・ウエスタン」のコンセプトが気に入った、と。人の「和洋折衷」が始まったのである。



この「和洋折衷」な製作現場を体現してくれたスタッフの代表者は、殺陣師のピーター・スティーブズだろう。金髪碧眼のアメリカンな外見とは裏腹に、スティーブズは長年日本の剣術を学び、自然館道場から免許皆伝を受けた本物のサムライである。「一撃必殺。本物のサムライ・ファイトを映画で描きたい」という光武の熱意と意気投合したスティーブズは、殺陣師兼スタントコーディネーターを引き受けた。武術の経験の無い日本人俳優陣にスティーブズが剣術指南をする姿は、まさに光武が思い描いていた、東と西とが融合したスピリットそのものであった。

「流れ者(Drifter)」を演じたジェフリー・ジェームズ・リポルドも、今までの人生の大部分を日本の武術に捧げた男だ。その存在感と気迫は300人を超えるオーディション応募者の中でも際立っていた。「この作品と出会えたのは夢のようだ。僕は『流れ者』を演じるために演技の世界に入ったと言っても過言ではない」とジェフリーは言う。彼の存在自体が「和洋折衷」であり、この映画のハイブリッドな世界観を映像化するために最高の人材だった。

撮影現場では、アメリカ人のハリウッドスタッフが各部署の長を務め、日本人映画留学生たちがインターンとして働いた。学生たちは、業界の第一線で働くプロフェッショナルの下で働くチャンスを得、アメリカ人スタッフたちは学生から、脚本に出てくる日本語や日本の文化を学ぶ光景が見られた。現場は、最高の雰囲気「和洋折衷」だった。

そんなスタッフとキャストに支えられ、光武は無事に『サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼』の監督と主演を果たした。光武演じる盲狼(Blind Wolf)の回想シーンを撮影したロケ最終日の約半日間、光武は、両目を潰された特殊メイクをしたため本当に目を開ける事ができなかった。「監督が目を開けられない映画撮影なんて本来ならあり得ない。でも、僕は今回のスタッフとキャストを心の底から信頼していたんだ。一人一人が、良いものを作るという情熱に燃えていた。だから撮影監督の中原を始め、みんなが僕の目になってくれることに抵抗は無かった。」

プロデューサーの柳本が撮影を振り返る。「時間も無く、製作費も無い映画でした。光武の描いた画コンテは700ショット近い数に及び、この映画は常識で考えれば、実現不可能でした。でも、イーストとウエストが一丸となれたから、不可能を可能に出来たのだと思います」

こうして、「和洋折衷」＝「スシ・ウエスタン」の26日間の撮影は、無事終了した。



監督メッセージ

日本には「四の五の言うな」という慣用句がある。英語に直訳すれば、Don't say four or five。これでは意味不明だが、その意は、「ぐだぐだ物事を悩むな」だったり「たらたら言い訳をするな」ということだ。そもその出典は、賭博用語だったらしい。サイコロを使った半丁賭博で偶数にするのか奇数にするのかで迷って決めかねている、優柔不断な思い切りの悪い輩を、「四の五の言いやがって」と評したらしい。四は偶数の代表、五が奇数の代表というわけだ。

僕は元来この言葉が好きである。男らしいと思う。無頼な感じも良い。

だからずっと、四の五の言わないヒーローに憧れてきた。ダーティハリー、ポール・カージー、拝一刀、座頭市……。許せないヤツは許さない。叩き斬るべきヤツは叩き斬るのである。僕が憧れた70年代のヒーローたちは、四の五の言わないのだ。

そんなヒーローが映画から消えて久しい。最近では、スーパーマンもスパイダーマンも何かしら悩んでいた。最近のヒーローたちは、四の五の言うのである。

日本のフィクションの状況はさらに悪い。我らの国宝級ヒーロー、怪獣退治のウルトラマンでさえ、近作では、悪い怪獣をビームで木っ端微塵に吹き飛ばすのではなく、説得して保護してしまうと聞いた。四の五の言いすぎてもんだろ、それは。

現実社会においては、完全な善も完全な悪も存在しない。ある国家の正義はある国家の悪であり、ある宗教の正義はある宗教の悪であり、ある人の正義はある人の悪となる。それなりの年齢になり、それなりの常識を身につければ誰にでも解ることである。浮世ってヤツは、四の五のぐらい言ってなきゃ耐え難い。だから近年、架空のヒーローたちまでが四の五の言いたくなる気持ちも、分からんでもない。



でも、現実社会の複雑さから逃れ、まったくの絵空事の中で勧善懲悪を求めるのは、人間の娯楽に対する素直な欲求ではないだろうか。少なくとも僕は、四の五のと悩んでいるヒーローは見たくない。実社会で悩んでいる僕にカタルシスをくれるヒーローに憧れたいのだ。

というわけで、僕は四の五の言わない復讐の鬼、盲狼(ブラインド・ウルフ)を作ることにした。残酷チャンバラ映画とマカロニ・ウエスタンという、四の五の言わないヒーローたちの2大ジャンルへのリスペクトと愛を込めて、新しいジャンル「スシ・ウエスタン」を誕生させた。その第1作が「サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼」なのである。

ぜひとも、四の五の言わないで、ご覧いただきたい。

監督・製作・脚本・主演
光武 蔵人

クレジット

キャスト

盲狼／Blind Wolf	光武 蔵人 [Kurando Mitsutake]
流れ者／Drifter	ジェフリー・ジェームズ・リポルド [Jeffrey James Lippold]
ネイサン・フレッシャー／Nathan Flesher	ドミチアーノ・アーカンジェリ [Domiziano Arcangeli]
サラ／Sarah	メーガン・ハリン [Megan Hallin]
トラック運転手／Truck Driver	カイル・イングルマン [Kyle Ingleman]
バーテンダー／Bartender	ローレン・ルッチャー [Loren Lutcher]
催眠術師／Hypnotist	伝田 真理子 [Mariko Denda]
老人／Oldman	神田 昭洋 [Aki Hiro]
呪術師／Zombie Mistress	ティーガン・アシュトン・コーハン [Tegan Ashton Cohan]
ライフルマン／Rifleman	小坂 正三 [Masami Kosaka]
暢虎／Nobutora	鎌田 規昭 [Noriaki Kamata]
友情出演	アマンダ・プラマー [Amanda Plummer]

スタッフ

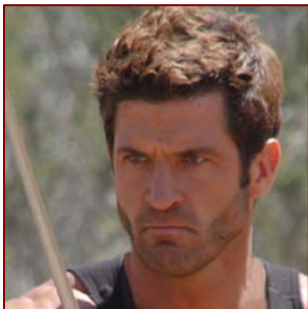
監督／脚本／製作	光武 蔵人 [Kurando Mitsutake]
製作	柳本 千晶 [Chiaki Yanagimoto]
撮影	中原 圭子 [Keiko Nakahara]
共同脚本／編集	ジョン・ミグダル [John Migdal]
音楽	ディーン・ハラダ [Dean Harada]
美術	スティーブ・オチョア [Steve Ochoa]
衣装	ケリー・コドウスキー [Kerrie Kordowski]
特殊メイク	マイケル・デル・ロッサ [Michael Del Rossa]
殺陣師	ピーター・スティーブズ [Peter Steeves]
キャストイング	明里 麻美 [Mami Akari]

キャスト



光武 蔵人 [Kurando Mitsutake] (盲狼／Blind Wolf)

映画監督・光武蔵人の俳優としてのキャリアは、本作品「サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼」の製作費を集めるために監督・製作した短編映画、「Samurai Avenger: Lone Wolf Blood」の中で、小さな役を演じたのをきっかけに始まった。偶然にも、彼の友達で俳優のエージェントがその短編映画を見て光武の存在感に可能性を見出し、俳優として契約したのだった。その後の活躍は目覚ましく、2007年、米 ABC ネットワークの人気ドラマ「アグリー・ベティ」シーズン1第4話で全米デビュー。2008年には米 NBC ネットワークの大ヒットテレビシリーズ「HEROES／ヒーローズ」シーズン2に、悪役『白髭 (White Beard)』として3話に渡り出演した。米映画俳優協会 (SAG) 所属。



ジェフリー・ジェームズ・リポルド [Jeffrey James Lippold] (流れ者／Drifter)

米海兵隊大佐の息子として生まれたジェフリー・ジェームズ・リポルドは、水陸偵察部隊 (Amphibious Force Recon) や、米海軍特殊部隊 (Naval Spec Ops Special Warfare group) に所属するなど、若くして軍のエリートとして活躍。また、合気柔術を始め複数の黒帯を持ち、世界の武術にも精通する。その後、舞台俳優にキャリアを移し、「ハムレット」、「ドラキュラ」、「マクベス」などの舞台に出演。また、武術の経験を活かし、所属劇団の「ロミオとジュリエット」では、剣術の振付師も担当した。2007年からは活動の場を映画に広げ、ベン・スティラー、ジョセフ・ファインズ、ニック・ノルティ、ロバート・ダウニー Jr らと共演。本作品でアマンド・ブラマーとも共演を果たしたジェフリーは、「この作品と出会えたのは夢のようだ。僕は流れ者を演じるために演技の世界に入ったと言っても過言ではない」と語る。



ドミチアーノ・アーカンジェリ [Domiziano Arcangeli]

(ネイサン・フレッシャー／Nathan Flesher)

イタリア、ベネチア生まれ。弱冠13歳のとき、フランコ・ブルサティの「The Good Soldier (原題)」で俳優デビュー。それ以来、出演した長編映画は37本を超え、8本のテレビシリーズにも出演経験を持つ。イタリアとアメリカを中心にヨーロッパの国々でも活躍する国際派俳優である。出演作品は、ショーン・コネリー主演「薔薇の名前」、スペインの鬼オジェス・フランコ監督作品「Flores De Perversion (原題)」、米テレビシリーズ「Sin's Kitchen (原題)」、またザルマン・キング製作のテレビシリーズ「Chromium Blue」では主演のひとりとして全エピソードに出演した。他にもフェデリコ・フェリーニ、リリアーナ・カヴァーニ、ティント・ブラス、ウンベルト・レンツィ、ルチオ・フルチ、ステルヴィオ・マッシ、ブルーノ・マッティなど錚々たるイタリアの巨匠監督の作品に出演した経歴を持つ。2008年にはその長年の功績を称え、第72回南カリフォルニア映画協議会から Golden Halo 賞が贈られた。



メーガン・ハリン [Megan Hallin] (サラ/Sarah)

アメリカ北西部生まれ。女優を目指し、ロサンゼルスに移り住む。その後、精力的に演劇レッスンを受け、地元の舞台に出演するなどの地道な努力を続け、プロの俳優としてのキャリアを着実に築く。出演したインディペンデント映画が映画祭で上映されるなど、今後は注目される若手女優の一人。長年の友人である光武蔵人との初共演について、「とても光栄なことで、思い出に残る経験になった」と語っている。



カイル・イングルマン [Kyle Ingleman] (トラック運転手/Truck Driver)

ミネソタ州のツンドラに囲まれて育ったカイル・イングルマンは、いつしか俳優になるという夢を抱き、雪に鎖された故郷を離れた。太陽の燦々と輝くカリフォルニア、ロサンゼルスを開拓地に定め、ハリウッドで映画やテレビシリーズに出演する中、2004年、光武蔵人監督の長編映画デビュー作品「Monsters Don't Get to Cry」(邦題「モンスターズ」)に主演。銃乱射事件の高校生犯人という複雑な役柄を迫真の演技で演じきる。それ以来、光武とイングルマンの信頼関係は厚く、本作品「サムライアベンジャー／復讐剣盲狼」はふたりの三度目のコラボレーションとなる。また俳優業で活躍する傍ら、ロサンゼルスUnknown Theaterという劇団の運営に参加。地域のパフォーマーたちに創作活動の場を提供、支援している。



ローレン・ルッチャー [Loren Lutcher] (バーテンダー/Bartender)

アメリカ合衆国ジョージア州出身。カリフォルニア州パサデナのAmerican Academy of Dramatic Artsで演技を学び、過去15年間に渡りロサンゼルスで活動しているベテラン俳優である。悪役にタイプキャストされることが多いと自ら語るルッチャーは、与えられたすべての機会に演じる喜びを感じ、タイプキャストも楽しんでいると言う。そんな彼の創作意欲と才能は演技の世界だけにとどまらず、詩人やミュージシャンとしての顔も持つ。近年は、詩集「From Torment to Tranquility」を出版し、「Here I Am」というアルバムを完成させたばかり。オフィシャルウェブサイトwww.lorenlutcher.comでは、彼の多岐にわたる活動を垣間見ることができる。



伝田 真理子 [Mariko Denda] (催眠術師/Hypnotist)

東京都出身。若くして俳優のキャリアをスタートさせた伝田は2001年秋、さらなる活動の場を求めてロサンゼルスに渡米。アメリカのインディペンデント映画への出演で着実にキャリアを伸ばす。出演作「Backslider(原題)」は各映画祭で注目を集めたのち、カンヌ映画祭でも上映された。また舞台にも果敢に挑戦し、シェイクスピアの「テンペスト」、「Iphigenia at Aulis(原題)」などに出演。「Bon Ton Roulette(原題)」でアメリカやドイツのシェイクスピア・カフェの舞台に立つなど、その活動はアメリカに留まらない。シェイクスピア・カフェでの彼女の演技は注目を集め、アメリカン・クロニクル誌に取り上げられた。(http://www.americanchronicle.com/articles/49953)



神田 昭洋 [Aki Hiro] (老人／Oldman)

東京都出身。伝説のバラエティー番組「天才たけしの元気が出るテレビ！！・お笑い甲子園」出演で注目を集めた神田は、お笑いコンビ「爆裂クレイジー」として芸能界デビュー。その後、演技・お笑いの分野でさらなる可能性に挑戦するため渡米。ロサンゼルスを拠点に俳優活動を開始した。また、日本のお笑いをアメリカそして世界へ広めようと、コメディアンとしても精力的に活動中である。本作品では、1回につき3時間かかる特殊メイクに耐え、メイクの中からも存在感を放つ眼力と見事な演技力で強敵刺客、超

老人を演じ切った。



ティガン・アシュトン・コーハン [Tegan Ashton Cohan] (呪術師/Zombie Mistress)

コーハンは若くして演劇の世界に魅了され、ナショナル・シアター・インスティテュートやシェイクスピア&カンパニーにて演技を学ぶ。舞台の経験が豊富で、トム・ストッパードの「ローゼンクランツとギルデンスターンは死んだ」のギルデンスターン役から「ロミオとジュリエット」のジュリエット役まで、カラーの違う主役級の役を演じ分けられる才能の持ち主。「The Mysteries: The Creation & The Passion」での彼女の演技は、業界紙バラエティでも取り上げられた。また、演技の分野以外では「Daizy the Clown & Company」とい

うパーティ・エンターテイメント会社を経営、ロサンゼルスの子供達にエンターテイメントを提供することに楽しみを見出している。



小坂 正三 [Masami Kosaka] (ライフルマン／Rifleman)

静岡県出身。俳優として大成するという夢を追いロサンゼルスに単身渡米。テレビ CM への出演を中心に演技を磨き、2007年には米 ABC ネットワークの人気テレビシリーズ「恋するブライアン」シーズン2に出演を果たした。光武蔵人の短編監督作品「Samurai Avenger: Lone Wolf Blood」に主演。本作品「サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼」では刺客のひとりとして光武とふたたびタッグを組む。ヒーロー、悪役、どちらも演じ分けられる若き才能である。



鎌田 規昭 [Noriaki Kamata] (暢虎／Nobutora)

栃木県出身。俳優を目指して上京、舞台を中心に数年間東京で活動する。1998年にさらなる修行の場を求め、渡米。ロサンゼルスに活動の場を移す。その後、数々のインディペンデント系映画から「パール・ハーバー」や「ラスト・サムライ」のようなメジャースタジオのハリウッド映画まで、作品の規模に関わらず熱い演技を披露する。舞台で鍛えたその圧倒的な存在感に光武が惚れ込み、本作品への出演となった。今後の活躍が注目されるハリウッドの日本人俳優である。

スタッフ

光武 蔵人 [Kurando Mitsutake] (監督／脚本／製作)

東京都出身。幼年期に見たスティーブン・スピルバーグ監督作品「激突」の不条理さと、三隅研次監督作品「子連れ狼 三途の川の乳母車」の残酷チャンバラに激しいトラウマを受け、映画監督を志す。1990年、単身アメリカの高校へ留学。サンフランシスコ芸術大学(San Francisco Art Institute)を経て、カリフォルニア芸術大学(California Institute of The Arts)にて学士号、同大学院にて修士号を修得。在学中に映画監督・岡本喜八の通訳を経験。その人柄と作品に魅了され、師事する。卒業後は、ラインプロデューサーとして米映画会社ニューライン・シネマ製作の「ラッシュアワー」、「ロスト・イン・スペース」、「ブレイド」などのDVD映像特典制作に参加。その後、ロサンゼルスにある日系テレビコーディネーション会社に就職し、約2年間コーディネーターとして「NHK特集」や「世界ふしぎ発見！」などの現場に参加した。SONY VaioNet ロサンゼルス情報番組「@TV」でディレクターデビュー。2005年には、東映作品「燃ゆるとき」(細野辰興監督)で、ロサンゼルス撮影部分のラインプロデューサーに抜擢された。また、ソニーピクチャーズ製作「呪怨 パンデミック」では清水崇監督の、20世紀フォックス製作「シャッター」では落合正幸監督のアシスタントを務めた。2004年、念願の初長編映画「Monsters Don't Get to Cry」を監督。2007年3月には邦題「モンスターズ」として(株)マグザムよりDVD配給が実現した。2008年、「今の自分のすべてを賭ける作品」として、幼い頃からの残酷チャンバラ愛を爆発させた長編映画「サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼」を監督、主演。脚本と製作も共同で手がけた。なお同作品は、師匠、故岡本喜八監督に捧げられている。



柳本 千晶 [Chiaki Yanagimoto] (製作)

山梨県出身。母親の映画コレクションをVHSで観ることだけが娯楽だった田舎町に育ち、いつしか映画制作の道を突き進む決意をしていた。19歳でロサンゼルスへ単身留学。渡米して2週間も経たないうちに長編映画の現場に飛び込み、見よう見まねながらプロの撮影現場を学んでいく。カリフォルニア州立大学ノースリッジ校(California State University, Northridge)にて映画制作を専攻。在学中は奨学金を得るなど学業に勤しむ傍ら、多数の映画制作現場に参加し、インディペンデント作品で活躍する数々の監督、プロデューサーたちから直接指導を受けた。2007年、学士号を得て卒業。20世紀フォックス製作「シャッター」で、落合正幸監督のアシスタントを務める。その現場で光武蔵人と出会い、意気投合。弱冠24歳で、長編映画「サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼」を初プロデュースすることとなった。そのプロデューサーとしての手腕が評判を呼び、現在インディペンデント映画をプロデュースするオファーが殺到している。



中原 圭子 [Keiko Nakahara] (撮影／共同製作)

幼少の頃から映画の中に広がる映像世界の魅力に惹きつけられ、撮影の技術を学ぶため渡米。サンディエゴ州立大学(San Diego State University)にて映画撮影技術を学ぶ。在学中に撮影監督をつとめた短編映画「Mira Mar St.」が、2006年のサンディエゴ・ラティーノ映画祭で最優秀短編賞を受賞。また、「Blue Fish」というドキュメンタリー作品が国際学生映画祭で最優秀ドキュメンタリー賞を受賞するなど、卒業前から撮影監督としての頭角をあらわし始める。大学を卒業後は、さらなる可能性を求めロサンゼルスに活動の場を移し、インディペンデント映画を数々撮影、着実に撮影監督としてのキャリアを築いている。「サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼」は、彼女の4本目の長編映画となる。



ジョン・ミグダル [John Migdal] (編集／共同脚本／共同製作)

ニューヨーク州出身。少年時代、子供向けテレビ番組に出演したことをきっかけに作り手側の仕事に興味を覚える。その後本格的に制作の道に情熱を見出し、イサカ・カレッジ (Ithaca College) にて映画制作と脚本を学ぶ。卒業後、映画や CM の現場で働き、数々の部署を通して映像製作の実地経験を積んでいく。その過程で、ポストプロダクションの重要性を再発見したミグダルは、キャリアを編集へと移行させていった。現在、ロサンゼルスに活動の拠点を構え、自宅にファイナルカットプロを装備した編集室を設ける。そのスタジオでフリーランスエディターとして、多くのテレビ番組、インディペンデント映画、ミュージックビデオなどの編集に携わっている。また契約社員として、ワーナーブラザーズテレビ、MGM、ケーブル TV 局 REELZ チャンネルなどでプロモーション映像の編集を担当している。監督の光武とは「モンスターズ(原題: Monsters Don't Get to Cry)」で出会い、その後は公私ともに信頼する間柄となり、「サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼」は、ふたりの3度目のコラボレーションとなる。また、光武と共に脚本を書くことも多く、現在共同でいくつかの映画脚本を執筆中である。



ディーン・ハラダ [Dean Harada] (音楽)

ハワイ州オアフ島の自然に囲まれた幼少期を過ごした日系4世アメリカ人、ディーン・ハラダは、若くして音楽の道を志す。伝統あるニューイングランド音楽院 (New England Conservatory) で、デビッド・ライズナー、ラン・ブレイク、そしてグラミー賞受賞音楽家オスバルド・ゴリホフに師事。卒業後は、ソニー、ワーナー、BMG、キャピタルレコードなどと提携するレコーディングスタジオのもと音楽家としての活動を広げる。その後、活動の場をロサンゼルスに移し、エンターテインメント業界で作曲家としての才能をいかんなく発揮する。コマーシャル、テレビ、映画とその守備範囲は幅広い。アニマルプラネット、ABC ファミリー、ディスカバリー、E! エンターテインメント、フォックス、ナショナル・ジオグラフィックなどの全米テレビネットワーク作品に多くのスコアを提供している。大作からインディペンデント系作品まで、数々の映画音楽をこなすハラダは、その斬新なスタイルと柔軟な作家性で見事「サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼」の独特な世界観を音楽面からサポートすることに成功した。



スティーブ・オチョア [Steve Ochoa] (美術)

ロサンゼルス在住のプロダクション・デザイナー、スティーブ・オチョアは、ロサンゼルス映画学校 (Los Angeles Film School) にて美術、撮影、演出を学んだのち、美術の道を探めることを決意。その後フリーランスとして、小道具からアート・ディレクターまで、アート部門全般のポジションにつき、数多くの撮影現場で鍛え上げられる。その豊富な経験を生かし、デザイン、小道具や大道具の制作、現場での細かい美術・装飾指導まで、すべてを器用にこなすプロダクション・デザイナーとして業界の信頼を得ている。現在、カリフォルニア州ハンティントン・パークで妻と子供たちに囲まれて暮らしながら、精力的に活動中。彼の作品の一部は、www.myspace.com/steveochoadesignsで見ることができる。



ケリー・コドウスキー [Kerrie Kordowski] (衣装)

ニューヨーク州出身。1999年にアメリカ西海岸サンフランシスコに移り住み、伝統あるファッション・インスティテュート・オブ・デザイン・アンド・マーチャンダイジング (FIDM) でファッション・デザイン課程を修了。上級プログラムを受講できる数少ない学生のひとり選ばれ、FIDM ロサンゼルス校に進み、そこで舞台衣装を専門的に学ぶ。卒業後は、映画、舞台、ミュージックビデオなど様々な分野で衣装を担当し、その独創性の高い衣装デザインで次々と活動の場を広げる。2007年に衣装を担当した、ジェームズ・フランコ監督・主演作品「Good Time Max(原題)」は、トライベッカ映画祭をはじめ数々の映画祭で上映された。また、服やジュエリーのデザインにも才能を発揮し、自身のブランド「Opal Moon」を立ち上げ数々の作品を発表している。



マイケル・デル・ロッサ [Michael Del Rossa] (特殊メイク)

ニューヨーク州出身。幼い頃、大好きだったホラー映画の特殊効果に魅了され、十代の頃から自宅の地下室で特殊メイクや特殊効果を独学で作りはじめ。やがてその情熱はキャリアに変わり、1995年、映画の都ロサンゼルスに移住。自身の特殊メイクカンパニー、マルチビジョン FX を設立する。その後の彼の活躍は目覚ましく、「スプーン」、「ゴッド・アンド・モンスター」、「アンドリュー・NDR114」、「レジェンド・オブ・タイタンズ」などの長編映画の特殊メイクに次々と携わった。「After Image(原題)」(ミラマックス製作)では、特殊メイク及び特殊効果を担当する傍ら、作品中のスペシャルエフェクトに焦点を当てたドキュメンタリー作品「Portrait of Death(原題)」をプロデュースするなど、特殊効果への知識と情熱は人一倍強い。また、「パイレーツ・オブ・カリビアン／呪われた海賊たち」、「パッション」、「アイ・アム・レジェンド」、「300」、「ウォッチメン」などのメジャー作品に、特殊メイクアップアーティストとして参加。ハリウッドの第一線で活躍している。ロサンゼルスで撮影された矢沢永吉のミュージックビデオでは、矢沢の特殊メイクを担当したこともある。



ピーター・スティーブズ [Peter Steeves] (殺陣師)

若くして武道の世界に身を投じたピーター・スティーブズは、実に20年以上の武術経験を誇る。伝統的な武術を日本の地で究めたいという探究心から、単身で来日。自然館(ジネンカン)道場の門をたたき、柔体術、剣術を中心とする実践古武道の修行を数年間重ね、免許皆伝となる。日本の素晴らしい武術と精神性をもっと多くのアメリカ人に知ってもらいたいと、帰国。カリフォルニア州サンタモニカで道場を開き、子供から大人まで幅広い層に実践古武道と日本の伝統的文化を教えている。「サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼」では、本物のサムライアクションを活写したいという光武の情熱に同意し、数ヶ月に渡って自らの道場で俳優陣の武術指導を徹底的に行った。



明里 麻美 [Mami Akari] (キャスティング)

兵庫県出身。映画制作を学ぶため、アメリカ西海岸へ留学。カリフォルニア州立大学ロングビーチ校(California State University, Long Beach)で映画と映像芸術を専攻し、2007年に卒業。現在は、ハリウッドを拠点とする独立系映画製作会社ハーバーライトエンターテインメント(HLE)に所属し、映画企画の開発に携わる。「サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼」では、キャスティングを担当。300人以上の俳優を集めた。HLE 製作のリアム・ニーソン主演作品「After Life(原題)」では、アソシエイト・プロデューサーを務めるなど、若くしてハリウッド映画界の中核で活躍するマルチタレントである。



監督・光武蔵人へのFAQ

問：なぜ、今、チャンバラ映画なのか？

答：近年、世界の映画界はアジアブームに揺れました。アジアがクールだという概念は、日本発のホラーブームと根強い人気を誇る中国語圏発祥のカンフーアクションに代表されます。しかし今、J ホラー人気は下火となり、代わりに80年代のスプラッターが復活の兆しを見せています。それは、「ハロウィン」、「13日の金曜日」、「血のバレンタイン」などのタイトルがリメイクされたことにも証明されているでしょう。また、カンフーアクションもハリウッドに輸出され、「マトリックス」のVFXカンフーファイトでクールの頂点を極めました。やりすぎ状態に陥った「マトリックス」フランチャイズはカンフーのセルフパロディになってしまい、ブームに自ら終止符を打つカタチになりました。そこで今、「アジアコンテンツで次に来るのは何だ？！」と、世界中が模索しています。僕は、ズバリ「チャンバラ映画」だと宣言します。「一撃必殺」の美学を持つホンモノの武士の戦いは、西部劇の早撃ちにも通ずる潔さを持っています。80年代スプラッター映画の基礎を作ったと言われる70年代の残酷チャンバラ映画、『子連れ狼』シリーズや『座頭市』シリーズに代表されるその作品群は、全世界で圧倒的な支持を受け、今でも根強いファンたちはたくさんいます。この「一撃必殺チャンバラ」こそ、次に来るアジアン・クールだと僕は信じて疑いません。そして、「サムライアベンジャー／復讐剣 盲狼」がブームの旗手になれると信じています。

問：この映画が影響を受けた作品は？

答：70年代の血の通った熱いアクション映画全般でしょうか。もっと言及するなら、勝新太郎さんと若山富三郎さんたちの傑作群、勝プロダクション製作の作品すべてに影響を受けています。マカロニ・ウェスタンの巨匠たちの影響も大です。特に、セルジオ・レオーネとセルジオ・コルブッチというイタリア映画を代表する監督たちの作品は、インスピレーションの源でした。そして、僕の師匠、岡本喜八監督の傑作チャンバラ映画、「斬る」、「大菩薩峠」、「座頭市と用心棒」にも多大なる影響を受けています。



問：なぜ、監督・主演を？

答：この作品では、監督・主演のほかに製作もやりました。僕が監督し、主演する。これはプロデューサーとしての僕が決断したことでした。それは、僕が監督・主演をすることによって、低予算映画のプロデューサーとしての色々な頭痛の種が消えるという物理的な理由からです。まず単純に、雇う役者がひとり減ります。食わせる口がひとつ減り、食費が浮きます。移動の手配がひとり減り、交通費が浮きます。そして、現場で演出をする役者がひとり減ります。一日50ショットや70ショットを撮らなければ成立しないという不可能に近いスケジュールの中で、演出や殺陣指導をする役者がひとり減るといのは、大変な時間の節約になります。また、常に現場にいる俳優がいるというのも大きな時間節約の技でした。1分でも無駄にできない現場だったので、特殊メイクの仕掛け待ちのときや、他の役者さんたちのメイク待ちなどの少し空いた時間に、僕一人のクローズアップを撮り、至極能率的にショットをやっつけていくことができました。それに、幸いなことに僕は俳優としてアメリカの人気テレビシリーズ「アグリー・ベティ」と「HEROES／ヒーローズ」に端役で出演しています。プロデューサーとして、これらのタイトルを今作のPRに使えるのは大きなプラスだと考えました。

問：過激なバイオレンス描写。ここまで過激にした理由は？

答：今の社会は、過去に類を見ない、非常に暴力が身近な世の中です。毎日のように戦争に兵士が送られ、人々はテロリストの脅威に怯え、日常のように凶悪事件、猟奇事件が起こる。テレビでニュースを見るだけで絶望的な気分になります。この作品のバイオレンス描写に僕が込めた思いは、暴力はフィクションの世界にとどめよう、ということです。絵空事の映画の中で、ニセモノの血を派手に出して、ニセモノの死を描くことによって、暴力をフィクションの中で消化してしまう。そうすれば現実が、お互いの違いを尊重し、暴力に頼らない、血を見る必要のない社会になるのではないかと。それが僕の意図であり、願いでもあります。

問：「スシ・ウェスタン」とは？

答：イタリアの映画人は、アメリカ発の「西部劇」をモチーフにし、そこに自分たちのテイストを投入した「マカロニ・ウェスタン」という独自のジャンルを作り上げました。今回日本人である僕が、ウェスタンで最も普遍的に語られる復讐譚をモチーフにして、日本の残酷チャンバラのテイストを注入し、その作品で世界に勝負をかけます。その意気込み、スピリットのシンボルとして「スシ・ウェスタン」をキーワードにしました。寿司のように世界で愛される日本発のブームになるようにとの願いも込めて！

映画祭出品状況

(2009年4月2日現在)

ポルト国際映画祭 (ファンタスポルト)

プレミア・パノラマ部門
ポルトガル、ポルト

オフィシャルセレクション

2009年2月20日-3月1日

シネクエスト映画祭

コンペティション部門
アメリカ、サンノゼ

オフィシャルセレクション

2009年2月25日-3月8日

ゆうばり国際ファンタスティック映画祭

オフシアターコンペティション部門
日本、夕張市

オフィシャルセレクション

2009年2月26日-3月2日

アナザー・ホール・イン・ザ・ヘッド映画祭

コンペティション部門
アメリカ、サンフランシスコ

オフィシャルセレクション

2009年6月5日-18日

プチョン国際ファンタスティック映画祭

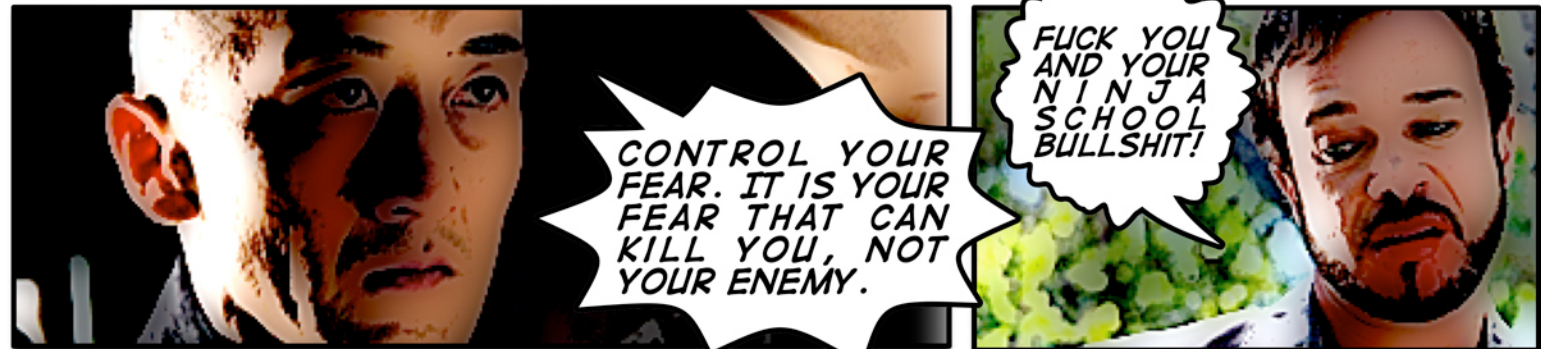
参加部門未定
韓国、プチョン市

オフィシャルセレクション

2009年7月16日-26日

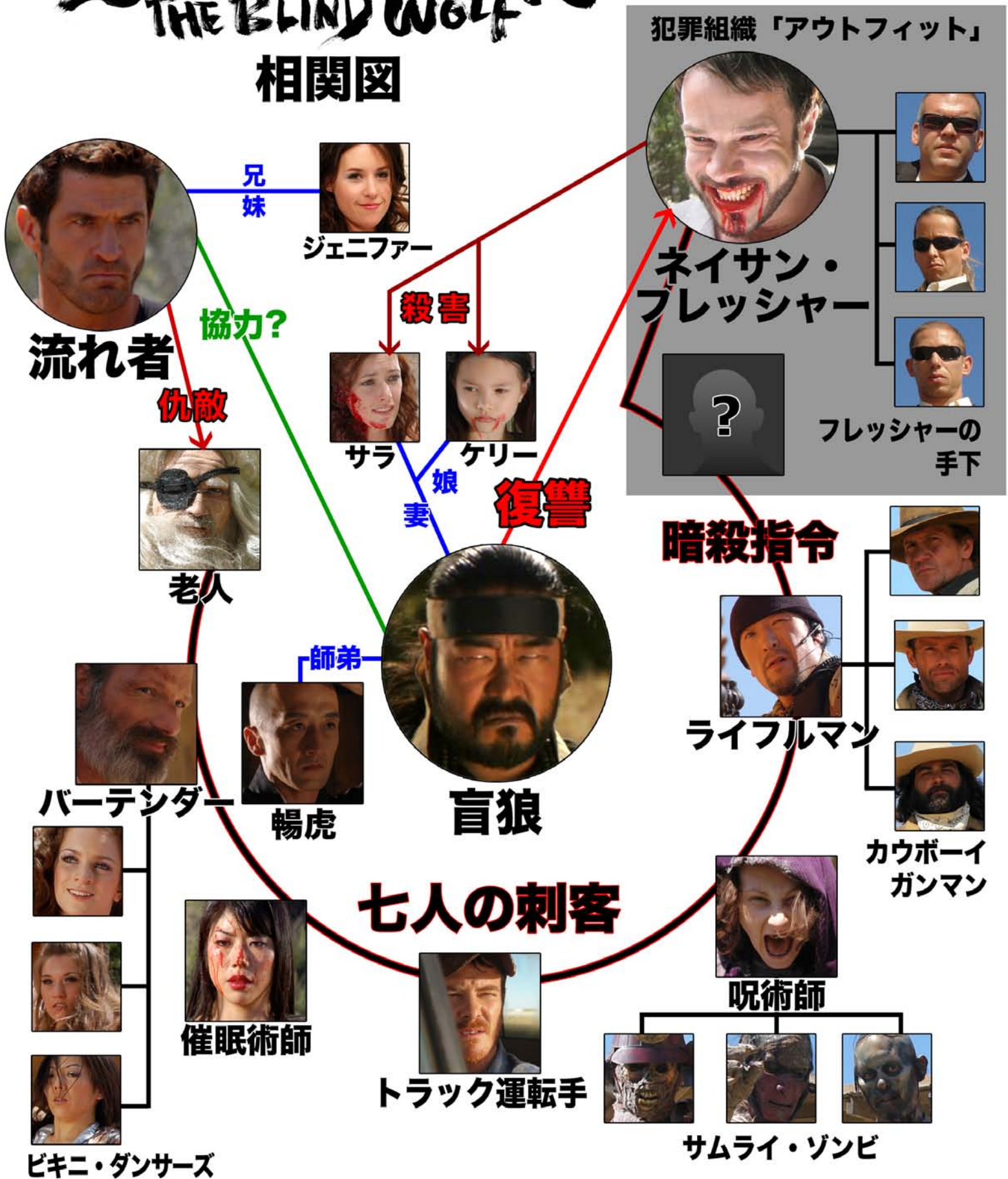


QUOTES FROM THE SCRIPT



SAMURAI AVENGER THE BLIND WOLF

相関図



NO HONOR. NO MERCY. REVENGE IS BLIND.



SAMURAI AVENGER THE BLIND WOLF

復讐剣 盲狼

A KURANDO MITSUTAKE FILM "SAMURAI AVENGER: THE BLIND WOLF"

KURANDO MITSUTAKE, JEFFREY JAMES LIPPOLD AND DOMIZIANO ARCANGELI
PRODUCTION DESIGNER STEVE OCHOA EDITED BY JOHN MIGDAL MUSIC BY DEAN HARADA DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY KEIKO NAKAHARA
SPECIAL EFFECTS BY MULTIVISION FX MAKE-UP BY COSTUME DESIGNER KERRIE KORDOWSKI
WRITTEN BY KURANDO MITSUTAKE & JOHN MIGDAL
PRODUCED BY KURANDO MITSUTAKE & CHIAKI YANAGIMOTO DIRECTED BY KURANDO MITSUTAKE

© Kurando Mitsutake MMVIII. All Rights Reserved. www.samuraiavenger.com

NO HONOR. NO MERCY. REVENGE IS BLIND.



SAMURAI AVENGER THE BLIND WOLF

復讐剣盲狼



A KURANDO MITSUTAKE FILM "SAMURAI AVENGER: THE BLIND WOLF"

KURANDO MITSUTAKE JEFFREY JAMES LIPPOLD AND DOMIZIANO ARCANGELI SPECIAL EFFECTS MULTIVISION FX COSTUME KERRIE KORDOWSKI
PRODUCTION DESIGNER STEVE OCHOA EDITOR JOHN MIGDAL MUSIC BY DEAN HARADA DIRECTOR OF PHOTOGRAPHY KEIKO NAKAHARA WRITTEN BY KURANDO MITSUTAKE & JOHN MIGDAL
PRODUCED BY KURANDO MITSUTAKE & CHIAKI YANAGIMOTO DIRECTED BY KURANDO MITSUTAKE